

例年にない暖冬であります。「桜前線の南下」…？沖縄では、一月にヤンバルで桜祭り…。それから、本島南部・宮古・八重山と「桜前線の南下」は毎年の年中行事とのことですが、今年はグッと冷えて溜めて溜めて花開くはずの桜たちが、あまりの暖かさにタイミングを外してしまい、静岡・愛媛などの開花宣言後いったん桜前線は南下、その後北上するとのこと…。異常気象の余波は「春の風情」にまで影響を及ぼしているようです。

さて、会報4月号…如何でしたでしょうか？

まず、『特別対談』～仲井眞弘多知事と宮城信雄会長との対談が巻頭を飾っております。知事が保健・医療に関して今後の抱負を述べられておりますが、とても力強いものを感じました。特に、医療参与・補佐官のポストを設置して頂けることは、非常に画期的な事と思われまます。医療に関する“シンクタンク（頭脳集団）”の設立も含め、医療参与・補佐官は是非とも独立したポジション（三役待遇）で、懸案事項に対し積極的なアドバイスができるようになる事を切に願っております。また、愛煙家の知事が禁煙を実行すべく努力したいと言う事でしたので、この点も是非とも頑張ってください。

第3回地区医師会長会議を含むいくつかの『報告』がありました。特に注目したいのは、『介護事故における事業所側の債務不履行責任について（南部地区医師会）』…。阿波連弁護士への照会、日本医師会介護保険課への照会など、とても重要な問題だと思われまます。介護施設内で起こった事故に対応する賠償責任保険としての「ウォームハート」という保険の案内もありますので、是非ご一読ください。

『医療に関する県民との懇談会』が平成19年1月25日に開催されました。担当理事の玉井修先生にとってもコンパクトにまとめて頂きましたので、小生の印象記も含め是非ご一読ください。

『耳の日に寄せて』というタイトルで鈴木幹男先生にご寄稿頂きました。沖縄県の約100人の耳鼻咽喉科医の先生方が、患者様のQOLの向上にご尽力されているとのこと…。今後とも、宜しく願い申し上げます。

『生涯教育』のコーナーでは藤田次郎先生に『胸部単純写真による肺炎および抗酸菌感染症の画像診断』というタイトルでご寄稿頂きました。細菌検査の結果を待たずに治療を開始しないといけないことも多いとの事で、胸部単純写真による画像パターンを詳しくご教授頂きました。生涯教育コーナーに相応しい内容の濃いご寄稿を頂き誠に有難うございました。

『プライマリ・ケアコーナー』には、吉村仁志先生に『尿異常からいろいろ見えるこどもの病気・こどもをとりまく状況』というタイトルでご寄稿頂きました。「排尿パターンの異常」と「尿の色の異常」

から、あれほどの鑑別疾患を考え、対処しないといけないということを改めて痛感いたしました。「話をよく聞き、フットワークよく五感で患児を観察し、無駄な検査を減らし、患者の利益を最優先させるケアが必要…！」まったく同感であります。

『インタビューコーナー』では、社保審査委員長の屋良勲先生に広報委員の久場睦夫先生がインタビューしていただきました。審査委員・保険者に分かり易い「コメントの添付」が重要だとのこと。公正・中立を基本として審査されているという事ですので、今後とも何卒ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

『地区医師会コーナー』には、山城千秋先生に『看護師養成課程の新設を進めて』というタイトルでご寄稿頂きました。沖縄県では年間約800人の慢性的な看護師不足…。平成20年4月から准看護コース（2年）の縮小、進学コース（3年）の廃止、レギュラーコース（3年）の新設…。難題山積のこの看護師養成問題ではありますが、素晴らしい成果が上がります事を心から願っております。

『発言席』のコーナーには、まず、高須信行先生から『甲状腺学会七條賞・三宅賞を受賞して』というタイトルでご寄稿頂きました。「みる眼を養う。発見はどこにでもある…。」肝に銘じて、小生ももう少し精進していきたいと思ひます。宮里達也先生から『世界保健デーに寄せて』というタイトルでご寄稿頂きました。「健康は個人の責任か？」、「司法による医療の破壊！」、「人間社会は善悪二元論で決着するのか？」…。先生の心からの“叫び”のようなインパクトを感じました。この会報紙面（『発言席』のコーナー）で忌憚のない議論・意見交換が行われる事を期待するものであります。

最後に『随筆』が2題…。まず、野原昌亮先生から『おのぼりさん靖国神社参拝、富士山拝見記』というタイトルでご寄稿頂きました。先生が「プチ軍事オタク」であった事、「不思議なスズメ」に出会った話などとても面白く読ませて頂きました。それにしても、早々に次のリレー随筆依頼を受けてもらえる先生が見つかったことは本当によかったと思ひます。長嶺信夫先生から『まぼろしの沙羅双樹を探し求めて』というタイトルの超大作をご寄稿頂きました。菩提樹・沙羅双樹・無憂樹…。沖縄の地に仏教3大聖樹をそろえようというバイタリティーに、壮大な男のロマンを感じました。しかし、沖縄までの移動中、手荒な扱いで沙羅の苗木が全滅にならなかったのは本当によかったと思ひました。

さてさて、三寒四温…。すごしやすい春もすぐそこまで来ているようですが、「別れビーサー」で季節外れのインフルエンザなんかには負けずにしっかり自己管理して、さらにさらに難題山積な新年度に立ち向かって参りましょう…。

広報委員 照屋 勉